

市政ニュース

子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭

『おんぷの祭典』を開催

11月10～15日、「子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭」『おんぷの祭典』を開催しました。

「子どもたちが、世界で活躍する音楽家と触れ合う機会を通して、豊岡に居ながらにして世界とつながることができると。そんな豊岡のまちを誇りに思う子どもを育てたい」。この趣旨に賛同した市民有志の実行委員会が企画・実施、ボランティアが会場設営や運営に協力し、音楽祭を支えました。



▲オープニングコンサート1。0歳児から親子で鑑賞



▲サロコンサート。音楽と料理を一緒に楽しむ

市内14カ所でクラシック音楽のコンサートを開催し、3千人を超える方が鑑賞しました。音楽祭には、音楽祭プロデューサーの中澤宗幸さん、ヴァイオリニストの中澤きみ子さん、種々の国際ピアノコンクールで優勝したヘンリ・シグフリードソンさん、バッハ国際コンクールで日本人初の第1位と聴衆賞を受賞した岡本誠司さんなど、世界で活躍する音楽家が出演しました。また、中澤さんの好意で、ヴァイオリンの3大名器のうちの一つ、ストラディヴァリウスとガルネリが登場。聴衆はその音色に酔いしれました。

震災復興のシンボル

10年後の開花を楽しみに「八重の桜」はるか「植樹式を開催」

12月3日、福島県で育てられた復興の桜「はるか」の植樹式が、出石町の「辰鼓楼」横で開催されました。

「はるか」は、昨年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主役・綾瀬はるかさんが命名した新種の八重桜です。



▲(左から)岡代表、川見正明、川見善明、中貝市長、升田議長、川見善明理事長

福島県外での植樹は、新島八重のゆかりの地・京都市の同志社大学に続いて2番目となります。八重の最初の夫「川崎尚之助」生誕の地・出石にと、Project Shimaさくらプロジェクトから苗木をいただきました。

式典には同プロジェクト代表の岡嘉紀さん、但馬國出石観光協会理事長の川見善明さん、川崎尚之助を偲ぶ会会長の川見正明さん、升田市長、中貝市長などが出席しました。

災害時における廃棄物処理に関する

応援活動協定を締結

12月4日、市は、災害時におけるし尿や浄化槽汚泥などの廃棄物処理に関する応援活動について、全但清掃協同組合および兵庫県環境事業商工組合と協定を締結しました。



▲(左から)県環境事業商工組合・田中一良理事長、全但清掃協同組合・濱上孝代表理事、中貝市長が調印

主な市政の動き

- 11月
 - 10日・但馬国府・国分寺館が「博物館」に登録
 - 14日・仲田光成記念 第14回豊岡全国かな書展(16日)
- 22日・「植村直己冒険館」開館20周年記念事業(23日)
- 25日・宇宙教育「出前授業」(26日、1月22～23日)
- 28日・市議会定例会開会(12月25日)除雪隊発隊式
- 12月
 - 3日・桜「はるか」植樹式
 - 4日・災害時の廃棄物処理に関する応援活動協定を全但清掃協同組合および兵庫県環境事業商工組合と締結
 - 5日・コウノトリ豊岡寄付金(ふるさと納税)リユース
 - 8日・弘道小学校が優れた「地域による学校支援活動」推進で文部科学大臣表彰を受賞
 - 9日・東日本大震災による新潟県三条市への避難者へ贈り物送付
 - 11日・エコプロダクツ2014に出展(13日)

時を越えて つなぐ、植村直己の人となりを

「植村直己冒険館」開館20周年記念事業を開催

平成6年4月に開館した植村直己冒険館は、今年20周年となり、11月22・23日、記念事業を開催しました。

期間中、市民をはじめ、関東地方などからも多数来られ、約2200人が来場しました。

オープニングはブルーグラスの生演奏。続いて、豊岡市が生んだトーク王「ユリオカ超特Q」さんのトークショー。植

村さんの偉業を交えながらの軽快なトークに会場は笑いの渦に包まれました。

地域の皆さんの「飲食バザー」や特産販売も大盛況。

「冒険家のおもてなし」では、冒険で食されたインドネシアカレー、イノシシやシカなどのいぶし焼きが振る舞われ、珍味に長蛇の列ができました。

全国の冒険家が集う「地平線会議」の特別報告会では、植村直己冒険賞受賞者で探検家の関野吉晴さんが、海のグレートジャーニー（日本人誕生のルート）の航海で使用した丸木舟



「縄文号」の上で講演する関野さん

「縄文号」の上で講演する関野さん

ました。植村直己クイズやツリーイング（ロープを使った木登り）、火起こし、クラフトなど、子どもたちの体験メニューもいっぱいありました。

「玄武岩の玄さん」「コーちゃん」「オーちゃん」と新年をお祝い

豊岡市マスコットの年賀状用イラストが完成

平成27年の年賀状用に豊岡市マスコットのイラストを作成しました。



平成27年 豊岡市マスコット「玄武岩の玄さん」

▲餅を焼く玄さん



平成27年 豊岡市マスコット

▲祝・新豊岡市誕生10周年



平成27年 豊岡市マスコット「羊飼いの玄さん」

▲羊飼いの玄さん

中貝市長の徒然日記 86

沖繩のコウノトリ米

11月、沖縄に行ってきました。沖縄は、今やコウノトリ米の最大の消費地です。地元最大手の流通グループ・サンエーで販売されています。

生産者、JAたじま・市職員らとともに店頭販売をし、米に関わる約230人の社員の方々にコウノトリの講演を

行い、社長、専務のご案内で地元新聞社を訪問しました。新たな商談も始まりました。

不思議です。なぜ沖縄で？平成22年11月、宮崎県綾町の有機農業推進大会に招かれ、

コウノトリの取組みを話しました。その会場にサンエーの土地社長がおられました。綾町の有機のきゅうりを扱って

おられたご縁でした。懇親会の席で、土地社長から声を掛けられました。「コウノトリの米をうちでも扱いた

いのですが」一カ月後、サンエーの店頭に一斉にコウノトリ米が並びました。22年産米の売上げは

100トン。驚異的数字になりました。味と背後の物語が、

沖繩の人々に受け入れられたのです。その後売り上げは順調に伸び、25年産米は176トンになりました。来年は200トンを超える見込みです。

ここで質問。なぜ、中貝は綾町に招かれたのでしょうか？平成20年、東京で開かれた地域航空フォーラムの基調講演で、コウノトリの取組みと東京直行便への思いを話しました。それを聞かれた航空局OBの方がその内容を旧知の宮崎空港株の社長に話をされました。そりゃ面白そうだと、宮崎空港関係者の会にお呼びが掛かりました。その講演の中で、有機農業の先進地・綾町は中貝のお手本だと話したところ、綾町長にそのことが伝わり、それなら同町の有機農業推進大会に招かれた、という次第です。お分かりになりましたか？

意図せずバスがスルスルと通って、ゴールに入っていたような感じでした。情熱の伝播と共感の連鎖。世の中、こんなことが起きるのですね。